



## 静岡地方気象台長からのメッセージ

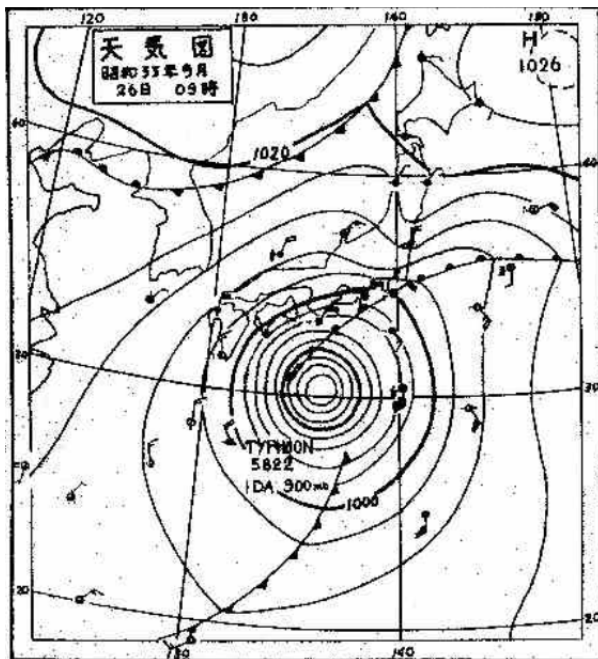
～狩野川台風から60年～



皆さん、こんにちは。静岡地方気象台長の中村です。

今から約60年前の昭和33年9月26日に、台風第22号が静岡県に接近し、伊豆半島の南端をかすめて、関東地方に上陸しました。当時、日本の南岸にあった前線が台風接近にともなって活発化し、前線による雨と台風による雨で東海地方、関東地方では大雨となりました。特に伊豆半島中部に集中して降った雨により、狩野川が氾濫して大きな被害をもたらされました。この災害による死者888名、行方不明者381名のうちの多くの方が狩野川流域で被害にあわれました。そのため、この台風には「狩野川台風」という名称がつけられています。

この狩野川台風の災害から60年が経過しました。その間に狩野川放水路に代表されるように、河川の氾濫を防ぐ施設整備は進み、気象台から提供する台風情報などの防災気象情報は質・量ともに充実しています。しかし、残念ながらそれによって台風による災害が無くなったわけではありません。先日の台風第21号が近畿地方を中心に暴風や高潮の大きな災害をもたらしたことは皆さまの記憶にあたりしいところだと思います。



狩野川台風接近時の天気図



台風への備えを考える場合、ほかの大雨災害などへの備えに加えて、次のような特徴に注意していただくことが重要です。

### ○台風は遠くに離れていても危険

台風が接近してくれば雨、風が強くなって危険なのは当然ですが、台風がまだはるか南の海上にある場合でも油断はできません。

狩野川台風のとくのように、日本付近に前線が停滞していると、台風がまだ離れていても、台風の影響で前線の活動が活発化して大雨になる場合があります。また、台風の周辺で発生した高波が「うねり」となって、日本沿岸に伝わってきて、まだ強い風が吹く前から思わぬ高い波に襲われることがあります。

### ○台風が遠く離れているときから、その動向を知ることができる

60年前に比べると気象の観測や予測の技術は大きく進歩しました。今では、赤道付近で台風が発生する段階から気象衛星でその状況を逐一とらえることができます。また、台風が日本に接近するかなり前から、今後の進路や、風の強さなどを台風情報で知ることができます。

これらの情報で、あらかじめ台風の動向を知り、余裕をもって台風への備えをすることが現在では可能になっています。

ことしの台風シーズンはまだしばらく続きます。これを機に狩野川台風の歴史を振り返っていただき、あらためて台風への備えを確認していただければと思います。

平成30年9月21日

### 【参考資料】

#### ○狩野川台風の記録

静岡県内の主な災害事例（気象台ホームページ）

<https://www.jma-net.go.jp/shizuoka/pdf/saigai/kanogawa.pdf>

「狩野川台風」－100年に1度の風水害－（静岡県立中央図書館）

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/data/open/cnt/3/61/6/karinogawa.pdf>

#### ○台風情報

気象庁の台風情報

<http://www.jma.go.jp/jp/typh/>